



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要								
建物名称	メルクエレクトロニクス(株)静岡事業所AMDC棟新築工事			BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度								
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6	/5	ふつつ					
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5	ふつつ					
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5	ふつつ					
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8	/5	がんばろう					
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満		

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.6	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)				
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ④排水管・通気管に耐用年数40年の材料を使用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤外構緑化指数32%分の緑地を確保。 ⑥空地率57%で、風の通り道を確保。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑨BEIm=0.46と、省エネ基準を大きく上回るよう設備設計をした。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水型便器および自動水栓を採用 ⑫内壁下地がLGS+PB若しくは外壁仕上げ、床にOAFロアを採用しているため、分別リサイクルがしやすい。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰便器は節水器具を採用。 ⑰非常用発電設備を設置し、非常時の際に使えるようにした。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑳階高平均6.575で、空間のゆとりを確保した。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑防犯カメラを内外に設置し、ポール灯も設置し、防犯性に配慮。 ㉑建築物西の広大な緑地を以て、建物利用者の憩いの場とする。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上		
	"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉒外構緑化指数32%分の緑地を確保。 ㉒空地率57%で、風の通り道を確保。 ■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ㉕見付面積比75%、隣等間隔指数2.26で、風の回復がしやすい配置である 	Q-3 1 ⑳ 2 ㉑ 3 3.2 ㉒ LR-2 2 2.5 ㉓ LR-3 2 2.2 ㉔	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉑ まちなみ景観への配慮 ㉒ 敷地内温熱環境の向上 ㉓ 持続可能な森林から産出された木材 ㉔ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築新築2021年SDGs対応版_速報版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	メルクエレクトロニクス(株)静岡事業所	階数	地上2F
建設地	静岡県掛川市千浜字糸線1297-1,1	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法第22条指定区域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年5月 予定	評価の実施日	2024年11月29日
敷地面積	6,450㎡	作成者	安井孝浩
建築面積	2,775㎡	確認日	
延床面積	5,413㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 76%
③上記+②以外の 76%
④上記+ 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
これは、CASBEE静岡 2021年版 ver1.0による評価である。	この建築物は、メルクエレクトロニクス(株)の先端材料開発センターとなります。	
Q1 室内環境 2階Staffroomについて、平均照度557lxとなるよう照明設備の設計をし、光環境を確保した。	Q2 サービス性能 電気については非常用発電設備の設置、通信手段については、別棟からの電話引込+社員への携帯電話支給という形で、災害対策に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 仮想境界内に外構緑化指数32%分の緑地を配置し、敷地内の生物・自然環境に加え、建築物利用者の憩いの場の創出にように配慮した。
LR1 エネルギー BEIm=0.46と、省エネ基準を大きく上回るような電気設備設計をした。	LR2 資源・マテリアル 手洗い水栓は自動水栓を、便器は節水型便器を採用し、節水に努めた。 OAフロアを採用し、資材のリサイクルをしやすいよう配慮した。	LR3 敷地外環境 夏季の卓越風向に対する見付面積比を75%に抑えた上、隣等間隔指数2.26を記録し、風が通りやすい配置とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される